

# 外国人労働者の雇用と企業経営

橋本 由紀\*

東京大学大学院経済学研究科博士課程 / 日本学術振興会特別研究員

2010年1月

## 要 旨

本稿では、連合総研が1997年に全国の製造業企業を対象に実施した「グローバル経済下の中小企業経営状況に関する調査」結果を用いて、企業のもつどのような特徴が、外国人を雇用したいと考える確率を上げるのかを明らかにする。その際、企業が外国人労働者の雇用を規定する要因ならびに外国人労働者雇用の結果について、地域の要因やサンプル企業の選び方に起因するセレクション・バイアスの影響をコントロールした上で、両者を明示的に区別する。分析の結果、企業を外国人雇用に振り向ける様々な要因を特定することができた。その中で特に重要と思われるのは、「海外との競争の激化」「若い労働者の定着の悪さ」である。グローバル化が進む中で厳しい競争を乗り越えようにも、思うように日本人の若年労働者の定着が進まず、経営環境がひっ迫していた企業で、外国人労働者を雇用する確率が高まるといえる。

---

\* E-mail: yuki.hashimoto84@gmail.com.